

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月10日

【評価実施概要】

事業所番号	1271600510		
法人名	医療法人社団 寿光会		
事業所名	グループホームいきいきの家 成田		
所在地	〒286-0844 千葉県成田市362-2 (電 話) 0476-23-8711		
評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成20年11月10日	評価確定日	平成21年2月5日

【情報提供票より】(20年10月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	13 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 7.7 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	光熱費 20,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要(10月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.5 歳	最低 77 歳	最高 97 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	栗源病院・成田病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山林・田園風景に囲まれたのどかな場所に位置するホームである。春にはウグイスの鳴き声が聞こえ、秋には黄金色の稲穂が入居者の目を楽しませてくれる。一方で10数分も車を走らせれば成田空港や大型ショッピングセンターがあり、買い物場所などにも不自由することがない。ホーム入口には、手作りの看板が設置されており、玄関ドアは3枚引戸になっていて、温かさをかもし出している。開設後3年を過ぎ一つの節目を迎えた同ホームでは、特に「接遇」を意識して日々入居者に接している。また、地域への認知症の啓発にも力を入れており、認知症高齢者サポーター養成などに力を貸している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	職員の目に入りやすい位置で、事務所壁にホームの理念が掲示されている。この理念は開設時に、全職員からの思いを吸収して作成したものである。法人理念は職員への浸透が薄いようである。今後、両理念のクロス部分を再考すると、更に理想に近づくサービスになると思われる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	管理者のみでなく、全職員の意見を盛り込み今回の自己評価票を作成した。全員で閲覧できるよう、各ユニットの壁に掲示されている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	会議への出席率アップを図るため、ホーム行事日に併せて開催している。しかし、望むような結果にはつながらず、模索中である。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	入居者の生活状況をレポートとしてまとめ、月1回家族へ報告している。ホームへの思いや苦情等は、全て口頭で伝えていただいている。今後は、この伝え方についても検討していきたいと考えている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	民生委員を中心に、地域活動に参加するためのアプローチを行っている。今後はホームから積極的な地域に向けた発信を行っていきたい。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に全職員の意見から、「いきいきと健やかに」・「安心した生活」という当ホームの理念が生まれた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員、入職オリエンテーション時に説明している。掲示はしてあるものの、その後の話題としては少ない。	○	職員との共有方法に関して、再度の検討・研修が望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会のゴミ拾い運動・リサイクル運動など、ホームで出来る地域の活動には参加したいと考えている。しかし自治会に参加するのはホーム職員ではなく大家さんであるため、なかなか実現に結びついていない。	○	地域交流にあたっては、大家さんを通すことが多いとのことだが、ホーム独自の判断で地域と係れることがないか、引き続き検討が望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者のみでなく、全職員に評価票を配布し、その後取りまとめを行った。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム行事の開催日に併せて運営推進会議を行い、家族の参加を高めるよう工夫している。現在は民生委員でもある大家さんと、入居者家族(5名程度)・職員らで開催している。	○	行政関係者、有識者、地域住民等、より一層多くの人々の参加を得て、会議を行うとさらによいと思われる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市内のグループホームで連絡協議会を立ち上げ、連携を図っている。今までは、責任者のみの参加であったが、前回よりユニットリーダーも参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の日常の様子を生活レポートとしてまとめ、月1回、家族に報告している。金銭管理については、入居者の力に合わせて小遣いを持って貰うことはせず、ホーム側で必要物品を購入し、家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームへの意見や苦情は、口頭での受付のみとなっている。	○	家族は親を預けている遠慮があり、なかなか意見・要望を言い出しづらいものである。より家族が意見を出しやすくするための様々な受付方法の工夫が期待される。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の職員異動を3ヶ月おき位に行っている。入居者と職員の馴染みの関係を作るよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	接遇についてはホームで特に大切にしており、年間を通じて研修が計画されている。外部研修については、職員個々の経験を考慮した上で、適した職員の参加を促している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の出席を、管理者のみでなく交代で他の職員も参加させる事を検討している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居希望者を受入れる準備はあるが、申込みはあまりない。併設のデイサービスからの入居希望者や、入院先から直接入居を希望する人が多く、職員が自宅・病院に出向いてアセスメントを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者個々の、かつての職業や趣味を活かせるように支援している。また職員は入居者に声かけして、仕事を手伝ってもらうこともある。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの思い・暮らし方の希望・意向の把握に努め、センター方式アセスメントシートに記録、職員全員で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に一度ケースカンファレンス(対象者に関する評価を共有し、介護計画を立て、共同して実行するための会議)を行い、入居者や家族の意向を反映して、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、定期的および入居者の状態の変化時、見直しを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域在住の認知症高齢者支援のため、認知症サポーター育成研修に協力するなど、認知症の啓発活動に力を入れている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携の栗源病院の内科医、歯科医による月1回の訪問診療を受ける他、もとからの掛かりつけ医の受診支援も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した際や終末期の過ごし方は、家族や医師と繰り返し話し合いを行い、その意向を職員も共有し、支援している。なおターミナルケアは行う方針であるが、まだ見取り実績は無い。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳に配慮した接遇には、特に力を入れており、年間通じて研修を行っている。新人職員等が読んで理解できるような、プライバシーについてのマニュアルがあると、さらによいと思われる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望を出来る限り優先しているが、職員の人数やその時のホーム内の状態によっては、すぐに対応できないこともある。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成および食材配達は、委託業者をお願いしている。献立はカロリー、栄養バランスが計算されたものである。しかし、入居者の希望があればそれを取り入れることもできる。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝風呂、夜間入浴も含めて、出来る限り入居者の希望に沿うようにしている。殆どの入居者は職員が介助して入浴している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、回覧板届け、新聞取り他、入居者一人ひとりの役割ごとを作り出すため、職員が働きかけを行っている。ホームでペットを飼うことはできないため、自宅で飼っていた犬や猫を、家族が連れてくることもある。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩が日課であり、少人数のグループごとにでかけている。家族参加型のピクニックも行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中は開放しており、夜間のみ防犯のため施錠している。2階の避難口は安全のため施錠している。		非常災害時に、速やかに避難口を開錠できるよう、ホーム内でしっかりとした取決めをしておくことが必要と思われる。
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもとに年2回の日中訓練の他、夜間訓練もしている。各室は事務所で管理する煙感知器が設置されている。	○	地域住民との防災協力を、また非常災害対応マニュアルの策定が望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分確保、便秘状況はおおよそ把握されており、入居者に変化が生じた場合には適切な対応がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の壁は飾りつけ等はあまりないが、入居者にとって使いやすい配置を取り入れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持ち込み制限は無いが、火災予防の為、仏壇へのローソク、線香、マッチ、ライターは禁止している。		